各位

2026年9月18日

会　社　名　のむら産業株式会社
代表者名　代表取締役社長　清川悦男
（コード番号：7131 東証スタンダード）
問合せ先　常務取締役　西澤賢治
URL:https://www.nomurasangyo.co.jp/

2026年10月期　第3四半期　決算補足資料

この質疑応答集は、2026年9月11日に発表いたしました2026年10月期 第３四半期決算について、当社で想定していました質問および発表以降に株主、投資家などの方々からいただいたお問い合わせの内容と、それに対する当社の回答について、以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。また、皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q１｜第3四半期累計で利益が当初の通期業績予想を上回り、通期業績予想を上方修正しました。業績が想定を上回った主な要因を教えてください。

A｜第3四半期累計では、包装関連事業において、包装機械の販売が順調に推移したことに加え、包装資材における原材料価格上昇分の販売価格への転嫁が進展したことなどにより、売上高・利益ともに当初の想定を上回りました。
包装機械については、前期末時点で積み上がっていた受注案件の納入・売上計上が順調に進んだほか、既存顧客における設備更新需要を着実に取り込んだことが寄与しております。
こうした第3四半期までの実績および足元の事業環境を踏まえ、通期業績予想を上方修正いたしました。

Q２｜修正後の通期業績予想では過去最高の売上高・利益を見込んでいます。どのように評価していますか。

A｜包装機械の販売拡大に加え、包装資材においても原材料価格の上昇に対応した適切な価格転嫁が進み、売上高・利益ともに堅調に推移しました。資材と機械の両分野が業績に貢献したことは、当社グループの強みである「資材と機械のワンストップソリューション」の成果の一つと評価しております。
一方、包装機械は案件ごとに納入時期や売上計上時期が変動するほか、包装資材についても原材料価格やコメの流通量などの外部環境に影響を受けます。
引き続き、環境変化への対応力と収益力を一層高め、安定的に利益を創出できる事業基盤の確立に取り組んでまいります。

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

Q3｜包装機械の好調は来期以降も継続すると考えていますか。

A｜当期の包装機械の受注状況は、既存顧客の設備更新や増設などの需要が重なったものとなります。機械案件につきましては、顧客の投資計画や納入時期によって年度ごとに変動する可能性がありますが、精米工場における省力化投資や生産性向上へのニーズを背景に、当社の包装機械に対する需要は、一定程度、堅調に続く想定ではあるものの長期的に持続するかは未定です。
今後につきましては、受注済案件の着実な遂行に努めるとともに、安定的な収益の確保に取り組んでまいります。

Q4｜包装資材における価格転嫁の進捗と、今後の利益率への影響を教えてください。

A｜包装資材については、中東情勢などの影響による原材料価格や物流費の上昇に対応するため、お客様のご理解をいただきながら販売価格の適正化を推進してまいりました。当第3四半期累計においては、価格改定による増収効果も業績に寄与いたしました。
一方で、足元では原材料市場に一部落ち着きが見られており、今後に市場環境の変化によっては販売価格の見直しを実施する可能性があります。当社といたしまして、引き続き市場動向を注視するとともに、安定供給の維持と適正な収益確保の両立に努めてまいります。

Q5｜東和グラビヤ印刷株式会社を子会社化する目的を改めて教えてください。

A｜東和グラビヤ印刷株式会社は、食品パッケージを中心に、印刷から製袋までを一貫して手掛ける製造機能と技術・ノウハウを有しております。当社グループは、企画した米穀精米袋の一部を同社から仕入れており、従来から取引関係がありました。
同社をグループに迎えることで、包装資材に関する製造機能の内製化を進め、品質、納期、コスト面での連携を強化するとともに、商品の付加価値向上を図ってまいります。
また、同社が有する米穀市場以外の顧客基盤を活用し、当社グループの提案領域を広げることで、包装関連事業のさらなる成長につなげてまいります。

Q6｜業績が堅調なパックウェル株式会社を譲渡する理由を教えてください。

A｜パックウェル株式会社は、物流業界における梱包・出荷業務の自動化・半自動化に対応する商品・サービスを提供し、当社グループ参画後も着実に成長してまいりました。
一方、当社グループの今後の成長戦略と事業ポートフォリオについて継続的に検討しきた結果、経営資源を主力の包装関連事業に集中させることが、グループ全体の企業価値向上につながると判断いたしました。
また、パックウェル株式会社にとっても、同社事業との親和性や専門性を有する譲渡先のもとで成長投資を進めることが、中長期的な成長機会の拡大につながると判断しております。

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

Q7｜パックウェル株式会社を譲渡することに伴う通期業績への影響を教えて下さい。

A｜2026年9月11日に公表した通期連結業績予想には、パックウェル株式会社の株式譲渡による影響を織り込んでおり、従来予想に含まれていた同社の第4四半期業績見込を除外しております。一方、包装関連事業が想定を上回って推移していることから、当該影響を織り込んだうえでも通期業績は期初予想を上回る見込みとなり、通期業績予想を上方修正いたしました。

以上

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.